

## 総務委員会記録

令和8年4月13日(月)  
13時58分～15時59分  
第2委員会室

【委員】沖田委員長、柳楽副委員長、  
戸津川委員、岡本委員、佐々木委員、西田清久委員、川神委員  
【委員外議員】森谷議員  
【事務局】森井書記

---

### 【議題】

- 1 【取組課題】防災・減災について（委員間で協議）
- 2 その他
  - (1) 行政視察について
  - (2) 地域井戸端会での委員会報告内容について
  - (3) その他

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[ 13 時 58 分 開議 ]

○沖田委員長

ただいまから総務委員会を開会する。出席委員は7名で定足数に達している。それでは、レジュメに沿って進める。

1 【取組課題】防災・減災について

○沖田委員長

取組課題「防災・減災」について、今後の調査検討を進めるに当たり、各委員から考えを提出していただいた。提出のあった内容の一覧を資料1-①としてまとめているので、参照されたい。

これを基に、委員会としてどのようなものを目指して、まずはどのようなことに取り組んでいくかを協議して決定していきたい。

正副委員長で各委員の意見を確認した。その中で最も多かったのは、まず避難行動計画の策定という点である。それに次いで、避難所の充足状況、つまり避難所や避難訓練といったことへの意見が多く、主にこの2点であったという印象である。

その中で、強いてもう一つ挙げるとしたら、浜田市においてははまだ防災・減災への意識が少し足りていないという思いがある。これはどこまでいってもなかなかゴールというのは難しいことかもしれないが、現在の状況は、決して意識が高いとは言えないのではないかという印象である。

その辺りを軸に、執行部に何らかの提言や意見書を提出することがゴールになると思うが、まずこの取組課題におけるゴールについては、そのような印象を持っている。

次に、具体的に取り組む内容である。委員の意見を見ると、まず自主防災組織への聞き取り調査をしたらどうかということ、それと防災士会との意見交換会をしたらどうかということ、更に先進事例の視察も必要ではないかという意見、避難所の備品の状況などの調査が必要ではないかという意見が見受けられた。

それらを踏まえ、随時執行部と意見交換をしてはどうかという内容が多かったと思う。

3番目の今後の行動方法として、委員は自主防災組織について、浜田市には現在90団体以上あるが、これら全てに聞き取りをするのは難しいので、何団体か協力してくれそうなどころなどをピックアップして、手分けして聞き取り調査を行ったらどうかという意見である。

それと、防災士会との意見交換会を行ったらどうかということ、そして行政視察でもう少し先進事例を見たらどうかという、主に3本柱で今後の活動を進めていけばどうだろうかと考えている。

それでは、1項目ずつ各委員から意見を求めたい。まず、取組課題における目指

すゴール、執行部に提言したい内容等について意見があればお願いします。

提言になるのか、意見書になるのか、何なのかというのは、今後の取組状況にもよるが、執行部に何らかの意見をしていくことは間違いないと思う。

その上で、何を意見していくのかという大まかな方向性で言えば、先ほど述べた避難行動計画と防災意識の向上、そして避難所の充実である。

各委員からの意見を集約する中では、この三つではないかと思っている。

それ以外にも、こういったものが必要だという意見はないか。

### ○戸津川委員

委員長が言われるように、防災意識を市民が持つことが最も大事だと思っている。災害が起きたときにすぐ逃げるということを執行部も言っていたが、まず逃げるのが大事なので、その意識付けをしていくことは大事だと思う。

ただ、漠然と意識付けをするのは難しいと思うので、災害時にどう行動するかを示すマイ・タイムラインの作成方法などを市民に引き出させていけば、おのずと一人ひとりの意識が上がっていくのではないかと思う。そのため、マイ・タイムラインを各地区で作っていくことは一つの目標として良いのではないかと思った。

### ○川神委員

防災意識の向上が最も重要だと思う。これは様々な話を聞いても、その重要性は理解しつつも、なかなか自分事として捉えられない。以前、広島の土砂災害の記念館などを視察した際に、語り部の方の話を聞き、改めて災害の重大さを認識した。身近なところでそうした話に触れることが重要だ。防災意識の向上は最終的な目標であり、この意識があれば様々な行動につながる。

ここを目指すためには、やはりマイ・タイムラインや防災拠点の整備といった、具体的なゴールを可視化できないと難しい。それを進めながら、その中で様々な話を聞き、最終的に意識を高める必要があるというところへ持っていけば良いかと思う。

マイ・タイムラインについては、以前視察に行ったが、子どもたちが作成するための素晴らしいアプリなど、いかに自分事として考えさせるかが重要だ。避難行動計画に関しては、マイ・タイムラインを可視化できる一つのゴールとすることが非常に有効だろう。

ここで避難所の充実という課題を取り上げ、浜田市全体の中での避難所の充実がどの程度進んでいるのか、どこを増やすべきか、ある程度線引きをしながら、現状をまとめた一つのガイドラインのようなものを作ることもゴールの一つではないか。見えることをしていかないと難しいと思う。

### ○岡本委員

私も今言われたマイ・タイムラインという取組を進めることが重要と思っている。もう一つの視点で、要配慮者の避難計画が進んでいないという問題がある。民生委員が関わり、障がいのある人や一人で避難できない人が誰かに頼って避難するシステムの構築が進んでおらず、先日的一般質問でも進捗率が30数%という状況であっ

た。

個々がマイ・タイムラインを作成し、それを何らかの形で吸い上げる仕組みをつくり、自主防災組織の中に組み込んでどうか。マイ・タイムラインは地域のものであり、お互いの命を守るという理由で作成をお願いし、そのデータを共有させてもらえば漏れがなくなるだろう。いつまでも民生委員や福祉委員がやるべきだとか、個人情報はどうだとかいう諸条件を付けるから進まない。

このようなことから、地域井戸端会でマイ・タイムラインという位置付けをアピールしようという話もあったので、マイ・タイムラインは積極的に行うべきだろうと思っている。

### ○西田清久委員

浜田市も、沿岸部と中山間地の住民、河川の周辺の住民では、標高も生活環境も全て違うし、災害の内容も全て違う。

それぞれの地域の中で、具体的に対策を考える必要がある。地震はいつどこで起きるか分からず対策が難しいが、地震に伴う津波であれば、沿岸の人は最大級の津波を想定してどう行動するかというマイ・タイムラインを作成する。河川周辺部の人は、豪雨時に川がどれくらい氾濫するか、濁流がどうなるかといった最大限の状況を想定したマイ・タイムラインが必要だ。山を背負って生活している集落の方々は、雨が降るといつも土砂崩れを心配する。そういった方々は、最大限の状態を想定してマイ・タイムラインを作成するという、地域ごとの具体性を持った取組が重要である。

それともう一つは、住宅が密集しているところでは、火災が起こった場合に風向きによっては大変なことになる。そういったことも想定したマイ・タイムラインが必要だ。一方で、山も背負っておらず、ある程度高い位置にあって地震以外はほとんど心配ないような方々は、なかなか実感として捉えにくく、作成が進まないと思う。しかし、地域ごとに状況は違うので、本当に心配な方々のマイ・タイムラインを最大限の状態を想定して作った方が良いと思った。

### ○佐々木委員

皆が言うように、マイ・タイムラインは非常に重要だが、お願いするだけではなかなか作成が進まないだろう。町内や地域で目標を決めて、何世帯以上作ってくださとか、お願いだけでなく、もう1、2段階強く働き掛けるような仕掛けが必要である。視察したところで、町単位で作っているところがあった。世帯ごとでは難しいだろうが、町内や地域を挙げて取り組むと進んでいくのではないかと。

避難所のことだが、避難所に本当に避難できる体制が整っているのか、我々もしっかり確認し、手を入れていかなければ、いざ災害があったときに何も整備されていなかったということでは良くない。避難所の整備状況の確認は、こちらで主体的にできることなので、ぜひ進めていきたい。

### ○柳楽副委員長

先ほど西田清久委員から、地域によって状況も起こる災害も違うという話があっ

たが、全くそのとおりだと思う。ただ、地震については全体に関わることであり、どの地域の人にも共通して訴えることができると考えている。

先ほど地域で計画という話があったが、私も以前はマイ・タイムラインを作ること注視していた。しかし、マイ・タイムラインも当然必要だが、地域で計画を持つことが、自助と共助の関連性として必要だと思う。「コミュニティ・タイムライン」などと言われるが、そういう地域でのタイムラインと合わせてやっていく必要がある。うちの地域で言えば、町内会単位でやるのが1番やりやすいと思う。

ただ、世帯が多いところは、班などの単位でやることになるかもしれない。しかし、やろうと思っても皆がそう思ってくれなければ進まないことなので、災害を身近に起こるかもしれないという危機感を持っていただけるような情報提供なども必要だと思う。

### ○沖田委員長

各委員からの意見では、防災意識の向上、避難行動計画、避難所の充実はある程度共通の認識だと思う。その中で、要配慮者の避難行動や、地域に情報が伝わらないという問題も挙がった。

マイ・タイムラインについては、全市に広げようと漠然と考えるのではなく、地域マイ・タイムラインというように、ある程度絞った形での調査研究の方がより進めやすいという印象も受けた。

そこで、提案になるが、当面の取組課題として四つの柱を立ててはどうか。

一つ目は防災意識の向上。二つ目は避難行動計画の推進、これは「地域マイ・タイムライン」というようにある程度絞った形とする。三つ目は避難所の充実であり、避難対象者数と備蓄の充足状況などを調査する。そして四つ目として、要配慮者の避難支援の問題だ。福祉部局の担当か総務部局の担当かという問題もあるが、自主防災組織には情報共有が必要ではないかということで、担当課との意見交換も必要だと思う。

### ○川神委員

マイ・タイムラインと同時にコミュニティ・タイムラインという話があったが、これは両方大事なことである。個人だけでなく、本来は家族単位で取り組むべきである。先般視察先であったように、子どもたちが学校で作って家に持ち帰り、家族で情報を共有する作業がとても有効だと思う。

また、要支援者に関しては、コミュニティ・タイムラインの中に組み込まれるべきだ。地域で取り組む中で、「あそこに要支援の方がいる」「何かあったら歩いていけない」といった情報をどう共有し、対応するか。これはコミュニティの中の課題であり、別個に項目を増やすことも良いが、地域の中のタイムラインに組み込むことも可能ではないか。

避難所の拠点については、ガイドラインという表現をしたが、現在の各避難所の状況、備品、定員、水道、Wi-Fi環境などを我々も全て把握できていない。それらが一目で分かるような資料を市民に情報提供できると良いと思っている。

### ○沖田委員長

それでは、当面はこの四つのテーマを主な取組課題の目指すゴールとしたい。要配慮者の問題は避難行動計画にも避難所の充実にも関わってくるため、実質的には三つの柱と捉えることもできるが、ひとまず四つの柱として調査研究を進めていきたい。良いか。

( 「異議なし」という声あり )

続いて、それに伴う具体的な取組内容について協議する。現在、自主防災組織への聞き取り調査、防災士会との意見交換会、行政視察、そして柳楽副委員長から教育部局へのヒアリングが挙げられている。

### ○柳楽副委員長

子どもが防災について学ぶことで、それが大人へと広がっていく効果も期待できる。また、子どもの時期から防災を学ぶことで、大人になったときにしっかりとした防災意識を持ち、自ら行動できるようになるという点でも大変重要であると考えた。

現在、実際に出前講座などを活用して防災学習を行っている学校もあるが、全ての学校で実施されているわけではない。できれば全学校でそのような取組ができるようになってほしいと考え、今回取り上げた。

### ○沖田委員長

岡本委員から、企業との連携状況の確認や過去の災害の検証、情報伝達の課題整理といった意見が出されている。このことについて説明をお願いしたい。

書いてあるとおりであれば、そのように解釈して進める。

### ○川神委員

先ほどから意見が出ている自主防災組織へのヒアリングは絶対に外せない取組である。対象をどの程度の規模にするのか、全ての組織を対象とするのか、あるいはエリアごとにいくつかの班に分けて行うのか検討が必要である。協議会などのように数を絞り、現在の活動実態や今後の課題を把握する必要がある。最終的には自主防災組織の拡大につなげていかなければならないため、このヒアリングは必須であると考えます。

また、防災士会との意見交換会については、どのような形式で行うのか検討を要する。以前の視察などを通じて、防災士の活躍や必要性は十分に理解している。先日、全国で最も防災士が多い松山市を視察した際も、意識の高さが未然の災害防止につながっていると感じた。しかし、現在の浜田市において防災士をただ増やすことが最適であるかは別問題である。意見交換会を実施することは良いが、そこに注力するのであれば、まずは自主防災組織としっかりと協議する方が良いのではないかと考えている。

さらに、資料にまとめられている避難所に関しても、どのような形で調査を行うのか考える必要がある。執行部が持っているデータを基に把握するのか、あるいは管理者等と協議を行いながら実態を紐解いていくのか、そうした取組が必要である。

ただし、自主防災組織へのヒアリングを行う際に、当該エリアの避難所に関する情報を得られる可能性もあるため、これらは併せて実施しても良いと考える。具体的な取組を進める上では、現場の生の声をしっかりと聞くことが重要である。

### ○戸津川委員

ヒアリング対象となる自主防災組織についてであるが、事前にピックアップされた組織のリストを見たところ、各組織の活動状況には様々な段階があると思われる。積極的に活動を進めている組織もあれば、体制を見直している組織や、これから頑張っていこうとしている組織など、状態は多様である。

そのため、全ての組織から話を聞くのは困難であると推測する。まずは先進的で最も頑張っている組織から話を聞き、目指すべき組織のあり方を探ることが有効ではないか。また、地域ごとの特性もあるため、それぞれの特性に応じた地域で意見交換を行うことも考えられる。

いずれにせよ、現場で熱心に活動されている方々の意見を聞くことは非常に大切である。

### ○沖田委員長

皆の意見を聞く中で、まず自主防災組織への聞き取り調査は確実に実施すべきという点で、見解が一致していると思う。

先日、執行部において、自主防災組織の一覧と、ヒアリング候補となり得る組織をピックアップしてもらった。資料 1-②がそれである。

全部で 90 を超える団体全てへの聞き取りは難しいため、執行部から推薦のあった 10 団体を参考にしたい。

浜田 3 団体、金城 1 団体、旭 2 団体、弥栄 2 団体、三隅 2 団体である。

もちろん、これが全てではないため、これ以外に心当たりのある団体や、話ができる団体があれば、各委員から意見をお願いします。

### ○岡本委員

このリストにある団体は、私が知る限りでも熱心に活動されているところだと思う。6月に行われる市の総合防災訓練にも、各町内が意識的に参加しようとしている。ただ、実際には避難するだけで終わってしまい、その後何をするにすれば良いのか分からずにいるのではないか。

ヒアリングでは、避難訓練以外の自主的な活動について聞き、防災会が定期的な会合でどのようなことを話し合っているのかも確認したい。

### ○沖田委員長

暫時休憩する。

[ 14 時 36 分 休憩 ]

[ 15 時 12 分 再開 ]

### ○沖田委員長

委員会を再開する。

資料1-②の自主防災組織をヒアリングする場合の候補となる組織を確認した。

委員7名を2人1組の3班に分け、それぞれ2か所の自主防災組織の聞き取りをお願いしたい。

班編成は、西田清久委員と柳楽副委員長の班、岡本委員と佐々木委員の班、戸津川委員と川神委員の班の3班とする。

ヒアリングする団体について、西田清久委員・柳楽副委員長班は、弥栄の仲三自治会自主防災会と三隅の松原自治会自主防災会の2団体をお願いする。

岡本委員と佐々木委員の班は、浜田の長沢2町内自主防災会と、旭の和田地区自主防災会をお願いする。

戸津川委員と川神委員の班は、野原町1町内自主防災会と金城の今福地区自主防災会の聞き取りをお願いする。

各班で連絡を取り合い、日程調整を行ってほしい。班の責任者も併せて決め、聞き取りを進めてほしい。

ヒアリングする内容について、委員会としてある程度統一しておきたい。どういったことを聞くべきか、各委員の意見があればお願いしたい。

#### ○岡本委員

執行部から情報提供を受けた自主防災組織の資料の備考欄をベースに質問項目を作成してはどうか。「活動は今どういう状況か」「連絡網はどうなっているか」「要支援者名簿の作成状況はどうか」「立ち上げの経緯や課題は何か」「現在直面している課題は何か」といった問い掛けをし、そこから深掘りした内容を報告書にまとめるといった形でいかがか。

#### ○沖田委員長

先ほどの岡本委員の意見を整理すると、備考欄に記載されている活動状況も含めて各団体で状況が異なるため、1点目は各防災組織の活動内容についてである。2点目は、要支援者への対応について団体ごとにばらつきがあると思われるため、要支援者の取扱いについてである。3点目は各団体の設立のきっかけや至った経緯についてであり、4点目は現時点での課題についてである。これら4項目を共通項目としたい。

#### ○岡本委員

もう1点、連絡網の整備状況についても項目に追加してほしい。なぜ連絡網かというと、例えば避難してこなかった住民に対してどのような行動が起こせるかが課題であると考えているためである。各地区で連絡網がどのように整備されているかを聞いておきたい。

#### ○沖田委員長

それでは、5点目に連絡網の件を追加し、以上の5点を共通項目とする。

#### ○柳楽副委員長

総合防災訓練の日も含めて、各地域で独自の防災訓練が実施されているかどうか

も確認したい。活動内容の中にも含める形でも構わないが、検討内容の必須項目として必ず確認するようにしてほしい。

#### ○戸津川委員

これらの項目をまとめたヒアリングシートを作成してほしい。統一したシートを作成し、それに基づいてヒアリングを行うことで、収集したデータを後日エクセル等で整理しやすくなる。

#### ○岡本委員

事前にヒアリングシートを対象団体へ配布しておく、団体で事前に準備もできるので良い。

#### ○柳楽副委員長

活動内容の項目で確認していただく必須内容として、地域独自の訓練の有無と、マイ・タイムラインの作成の進み具体を含めることとする。

#### ○戸津川委員

可能であれば、対象団体の代表者の連絡先を執行部から事前に聞いておいてほしい。

#### ○佐々木委員

課題の項目に入るかもしれないが、避難所の状況について、不備や要望、改善点などの意見があれば、これも課題の項目の中で確認したい。

#### ○岡本委員

確認であるが、この自主防災組織へのヒアリングを行う場所は、基本的に避難所を想定しているのか。

#### ○沖田委員長

特に場所の設定はしていない。

#### ○岡本委員

佐々木委員の提案のように、避難所でヒアリングをさせてほしいとお願いするのが良いと考える。現地に行き、実際の状況を見ながら話し合う方がリアルに課題を共有しやすいため、できれば避難所でヒアリングを実施してほしい。

#### ○佐々木委員

自主防災の活動を確認しながら、冒頭に話題に上った避難所の委員長調査も同時に実施できれば一番理想的である。

#### ○岡本委員

そうすれば、ヒアリング項目の中に、避難所における課題やWi-Fiの整備状況などを加えて、できている点とできていない点を深く掘り下げることができる。

#### ○沖田委員長

その点について、旧那賀郡などの地域であれば、まちづくりセンターや集会所になると思われる。野原や長沢の地域がそれに合致するかどうかという問題もあるが、長沢にはサブセンターができたので、そちらを活用できる可能性があるし、場合によっては石見まちづくりセンターなどになるかもしれない。

### ○岡本委員

福祉センターが避難所の位置付けになっていない場合もあるため、対象となる場所を確認してお願いする必要がある。

### ○佐々木委員

聞き取りに行く地域の指定避難所の状況を現地で確認し、難しければ避難場所の情報を共有してもらおう形になる。

### ○沖田委員長

各地区の担当者に連絡をとって会場を決める際、まずは指定避難所で現地確認を含めてヒアリングをさせてほしいとお願いしてもらおうということで良いか。

指定避難所での実施が難しい場合は、まちづくりセンターを借りるなどして、基本的には各防災会の指定避難所での実施をお願いする。

### ○柳楽副委員長

福祉センターは指定避難所ではない。いわみーるは指定避難所である。

### ○沖田委員長

地域によっては自治公民館が第1避難所になっている場合もあるため、代表の方と話し合っ場所を決めることになるだろう。それでも難しい場合は、まちづくりセンターやロビーなどを活用するなど、臨機応変に対応してほしい。

それでは自主防災組織へのヒアリングについてはそのように決定する。

最後にヒアリング内容について再度確認する。活動内容については、地域独自の訓練の有無と、避難行動計画マイ・タイムラインへの取組状況の2点を必須とする。その他の項目として、要支援者の取扱い、設立のきっかけ、現時点での課題、連絡網の整備状況、そして避難所に対する要望や改善点を確認する。これらをヒアリング項目と決定する。これで良いか。

( 「異議なし」という声あり )

そのように進めていく。ヒアリングシートについては事務局と相談して作成し、でき次第、各委員に配信するので確認をお願いする。

それともう一つ、防災士会との意見交換についてはどうか。

### ○岡本委員

防災士会の総会があることは知っている。防災士は一生懸命活動しているとは思いますが、それが地域の活動と連動しているとは思えない。元々、防災士の立ち位置は、地域でのリーダーではなく、情報提供などの役割だと説明があった。防災士が地域でどのような役割を担うのか、また防災士を増やすべきかについては、意見を求めても大きな意見が出てくるだろうか。

### ○柳楽副委員長

実際に地域で中心的に活動している方もいれば、どう活動して良いか悩んでいる方もいると聞く。市のスタンスとして、自主防災組織から推薦された方に防災士の資格を取得してもらっているが、その後のフォローや役割の明確化がなされていないのではないかと。市の予算で資格取得を支援したのだから、ある程度の役割を担っ

てもらおうという明確な目標を持つべきではないか。他の自治体では、そのような取組を行っているところもある。

### ○岡本委員

先ほどは否定的な見方をしたが、防災士の方々が抱える課題や意見をしっかりと聞くべきだ。それぞれイベント等で、トイレの扱い方や避難時の対応など、講習で得た知識や経験を市民に伝えてくれている。市の職員が全てを担うことはできないので、彼らの活動は必要である。ボランティア活動ではあるが、防災士の役割や仲間作りについて意見を聞き、必要であれば補助金を出すなどして活動を支援することも検討すべきではないか。

### ○沖田委員長

防災士会との意見交換会は、なるべく実施する方向で検討したい。ただ、漠然と意見交換会を開催しても話が堂々巡りになる可能性があるため、あらかじめこちらから聞きたい項目を宿題として各委員に提示してほしい。それを正副委員長で集約し、防災士会に申入れを行いたい。詳細については、後日、各委員に依頼するので、意見の提出をお願いする。

次に、避難所の状況確認だが、これは、自主防災組織への聞き取りを避難所で行うようお願いするので、その状況を踏まえて、必要であれば再度、班編成をして公設の避難所の現地確認を行いたい。

まずは、この自主防災組織の聞き取り調査を優先して進めていきたい。その状況によっては、避難所の確認等も行おうと考えているので、そのように理解されたい。これで良いか。

( 「はい」という声あり )

議題1については以上だが、良いか。

### ○戸津川委員

避難所の確認をするときは、我々だけで行っても良いが、やはり管理している防災安全課の方も一緒に行ってもらった方が良いのではないか。せっかく行くなら、同じ視点でそのときの状況を話した方が良いと思う。日程の都合もあるとは思うが、できたら担当課も一緒にいた方が良い。

### ○岡本委員

担当課も共有できるのでその方が良い。

### ○沖田委員長

他の委員はどうか。執行部立ち会いの方向で進めるということで良いか。

我々だけで決めことはできないので、執行部側に確認してみる。なるべく立ち会ってもらおうよう申し入れをしたいと思う。

### ○川神委員

無理はせずに可能であればということで、基本的には委員会主体で行う。

### ○柳楽副委員長

確認だが、この避難所の現地確認は、指定避難所ということで良いか。

## ○沖田委員長

そうである。あくまで公設の避難所である。自治会館や集会所となると、公的な支援とは別の話になってくるので、あくまで公設の避難所ということでお願いします。他にないようであれば、ここで暫時休憩する。

[ 15 時 36 分 休憩 ]

[ 15 時 41 分 再開 ]

## 2 その他

### (1) 行政視察について

#### ○沖田委員長

当委員会の本年度の先進自治体への行政視察について、委員から、日程の早めの調整や視察先候補地の選定等をしようという話があった。視察先については、委員会の取組課題としている防災に関することに加え、本委員会の所掌事項全般について視察すべき事項があれば協議していきたいと思う。

( 以下日程調整 )

それでは、8月4日(火曜日)、5日(水曜日)、6日(木曜日)の3日間という案でどうか。

( 「異議なし」という声あり )

候補地はすぐ出てこないと思うので、これも、先ほどの防災士会のヒアリング内容と併せて、視察の候補地があれば提案されたい。日程が決まっているので、視察先も早めに知らせてほしい。

いくつか提案いただいた中で、事務局とも精査しながら、先方の都合もあるので、その中で決めていきたいと思う。3、4か所ぐらい出していただければと思う。もちろん、どうしても行きたいという箇所があれば、それも合わせて組合せて行程を検討するので、よろしくお願いします。

### (2) 地域井戸端会での委員会報告内容について

#### ○沖田委員長

5月8日から始まる地域井戸端会について協議したいと思う。地域井戸端会では冒頭に、各常任委員会の活動報告を行うことになっている。3委員会ですべて合計10分程度、各委員会3分程度が目安である。どのような内容を報告するのか協議したいので、意見のある方はお願いします。

これまでの地域井戸端会では、各所管委員会の取組課題と令和8年度予算の注目事業の2点を報告してきたが、3分という時間ではどちらか一方を説明するのも難しい。注目事業は議会だよりも掲載し、当日も配布する。市報でも周知される。そうであれば、議会だよりも重複するような説明に時間を使うより、委員会として今どのような思いでどのようなことに取り組んでいるのかを市民に知ってもらう方が

重要ではないかと考えているが、各委員の意見を聞きたい。

### ○川神委員

委員長の方向で良いと思う。これまでも重点事項を説明していると、すぐに3分の時間が過ぎてしまった。議会だよりにトピックスや委員会の重点事項も載っているの、それをきちんと見ていただくようアピールし、残りの時間で、マイ・タイムラインや避難所の問題など、防災に対して本格的に取り組もうとしていることをきちんと説明していく方が、参加した住民も、報告を聞いているだけでなく、もっと話したいと思うことがたくさんあったのではないかと。報告会というより意見交換の場と考えれば、今述べたような取組の姿勢を話してから意見を聞く方が良く、報告や重点事項は議会だよりで良いのではないかと。思う。

### ○岡本委員

私も賛成だ。前回、前々回と、私が担当したところは簡略的に説明したが、総務文教委員会は最初だったので、その後の委員会が長かったという記憶がある。資料を作成して配布した委員会もあった。

総務委員会として今のような形でいくということであれば、議会広報広聴委員会にも、総務委員会の報告はこのような形で進めることが決まったと伝えたい。そうしないと、委員会ごとに強弱が付いてしまうのは良くない。川神委員から話があったように、委員会で内容をまとめていくことに賛成なので、共通の資料を作成し、それを読み上げるというスタンスでも良いので、よろしくお願ひしたい。

### ○沖田委員長

その他、委員から意見はないか。

( 「なし」という声あり )

それでは、今年度の地域井戸端会の報告についてはそのように決定するので、よろしくお願ひする。

改めて、どのようなことを具体的に説明するかを素案を後日、正副委員長で協議して皆に示したいと思う。もし、違うということであれば、また修正するのでよろしくお願ひする。

### (3) その他

### ○沖田委員長

資料3-③を参照されたい。

総務委員会の今後の取組課題等について、大まかなスケジュールを正副委員長で作成した。

まず、本日決まった自主防災組織のヒアリングは、とりあえず6月定例会議までということで、5月末までという表記にしている。

避難所の確認は、この状況を踏まえて流動的にしている。防災士会との意見交換会は、6月定例会議が終わってからを予定している。ただ、防災士会の都合もあるので、定例会議後という大まかな決め方である。

行政視察は8月4日、5日、6日で予定する。

これらが終わり次第、都度委員会を開いていく。その中で、例えば避難所の確認がもう少し必要だということになればまた追記するし、執行部との話し合いが必要ということになればこの中に組み込んでいく。あくまで一つの目安として、このようなスケジュール感で委員会を進めていこうと思うので、理解されたいが、各委員の意見を聞きたい。

#### ○岡本委員

総務委員会の取組である防災・減災というテーマは重要でエンドレスだと思うが、実質的にある程度節目で中間報告をするということも必要ではないかと思う。

議長に対して、取組はまだ継続中である中で、中間的な報告をどこかで行うことを考えてはどうか。

#### ○沖田委員長

その他、委員から意見はないか。

( 「なし」という声あり )

ないようであれば、先ほど岡本委員が言われた中間報告についてそのとおりと思う。本日これで全てというわけではなく、途中、委員会も何回も開催すると思うので、その中である程度報告できる内容がまとまったら、またその都度検討するということで、中間報告も検討したいと思う。

委員からその他何かあるか。

( 「なし」という声あり )

なければ、次の委員会について確認しておきたいと思う。

次に予定されている総務委員会は、6月定例会議前の5月25日である。それまでに1か月以上間があるが、それまでに委員会を開催して、本日決めることができなかった事項を決めておく必要はあるか。

( 「なし」という声あり )

#### ○川神委員

特にないと思うが、何かあればLINE WORKSなどで意見交換すれば良い。

#### ○沖田委員長

そのようにしたいと思う。

ないようなので、以上で総務委員会を終了する。

[ 15 時 59 分 閉議 ]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

総務委員会委員長 沖 田 真 治